

第6章 総括

大田市仁摩町地内の弥生・古墳時代について

平成25年度から開始した静間仁摩道路の発掘調査は、松林寺遺跡の調査で仁万平野における発掘調査が終了した。大田市仁摩町内においては、仁摩温泉津道路の発掘調査とあわせて資料が蓄積されている。本章では仁万平野の弥生・古墳時代の総括を行う。

【縄文時代～弥生時代前期】

潮川に沿って形成された仁万平野には、縄文時代から継続して遺跡が築かれる。仁万平野の南東隅に位置する古屋敷遺跡では、縄文時代後期～弥生時代前期の最大9面の遺構面を確認した。また、クルミの集積やトチの水さらし場といった生業に関する遺構が築かれた。仁万大橋遺跡や善興寺橋遺跡でも土器が出土しているが、特に仁万平野の東側での活動が盛んであったといえる。

この様相は弥生時代前期に大きく変わる。古屋敷遺跡では縄文時代の遺構面の上に弥生時代前期の貯蔵穴が築かれ、炭化米や炭化種子が出土した。また、五丁遺跡でも同時期の弥生土器が出土した。古屋敷遺跡や五丁遺跡の弥生時代前期の土器は「突帯文系土器」が顕著ではなく、弥生土器のみの組成に変化している。潮川下流の川向遺跡では弥生時代前期～中期の貯木施設が築かれており、仁万平野全体で活動が認められる。

【弥生時代中期～後期】

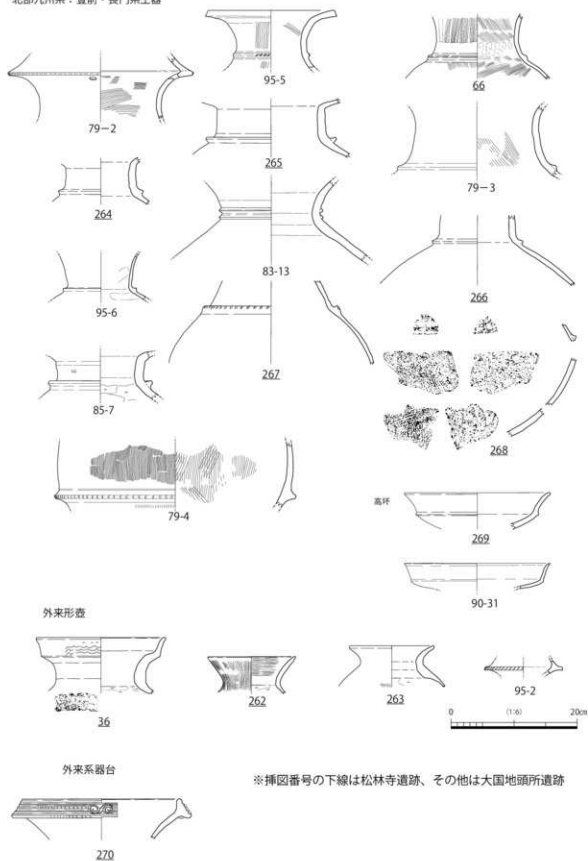
弥生時代中期の活動は川向遺跡以外では低調であるが、中期後葉になると標高50～80mの高い丘陵斜面に庵寺古墳群が築かれる。庵寺古墳群では尾根筋から斜面にかけての傾斜地に竪穴建物や加工段が築かれるが、その特徴として柱穴の規模が小ぶりで柱間が不整なものが多いことがあげられる。仁万平野の西側に位置する安養寺遺跡でも丘陵斜面に後期の竪穴建物が築かれる。中期後葉から後期前半に丘陵斜面に集落を築くが、量は少ないものの平地に位置する大国地頭所遺跡や孫四田遺跡でも土器が出土している。また、松林寺遺跡の谷状地形出土土器に中期後葉にさかのぼるものがあることから、潮川北岸での活動が始まったことがうかがえるが、大国地頭所遺跡、松林寺遺跡共に土器の量は少なく、仁万平野東南部の丘陵部での活動が盛んであるといえる。土器の特徴として、庵寺古墳群の土器には塩町式土器の影響を受けた土器が見られる。この特徴がある土器は、大国地頭所遺跡や孫四田遺跡でも出土している。

後期後葉になると、大国地頭所遺跡で平地式または竪穴建物の一部と考えられる弧状の溝などが築かれ、遺物量も多くなる。庵寺古墳群でも加工段が築かれるが、標高のやや低い場所に位置し、谷部で土器が出土する。仁万大橋遺跡や善興寺橋遺跡でも土器が出土するようになり、丘陵部の遺跡は松林寺遺跡が見られる程度である。この時期は標高の低い場所に位置する遺跡が中心となり、潮川北岸での活動が盛んになる。

【弥生時代後期の外来系土器】

第90図は弥生時代後期の大国地頭所遺跡、松林寺遺跡で出土した外来系土器を挙げた。北部九州系（豊前・長門を含む）土器の壺が多く出土していることがわかる。これらの壺の中には胎土が地元の土器とは異なるものがあり、貯蔵容器として壺の内容物の移動を示す。また、高環が出土していることは、内容物の移動だけではなく、多様な交流の存在を示唆する。この他、短頸の壺や外来

北部九州系：豊前・長門系土器



第90図 松林寺遺跡・大國地頭所遺跡の外来系土器 1

系の器台がある。

【古墳時代前期】

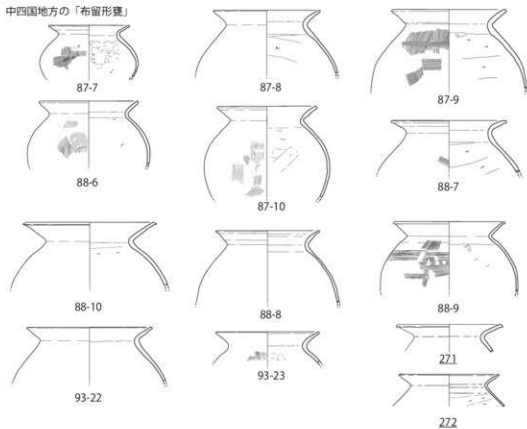
古墳時代前期にもこの様相は継続する。大国地頭所遺跡では複数の土器群が形成されており、遺跡の盛期である。大田市波根町高原遺跡でも1区では古墳時代前期の、2区では古墳時代中期の土器が出土しており（鳥根県教育委員会編 2013.2015）、遺構の様相は不明であるものの、大田市域では丘陵ではなく平地に遺跡が築かれる傾向がうかがえる。

一方庵寺古墳群の丘陵には小谷3式の段階から古墳群が築かれる。庵寺古墳群の特徴として、埋葬施設は組み合わせ式木棺から箱式石棺へ移行し、副葬品は完形の鏡を割り鉄器を折り曲げる、鼓形器台を転用して土器枕とし、石棺内に礫を敷くという鳥根半島から伯耆・因幡・丹後の小型古墳にみられる特徴を持つ。また、庵寺遺跡の2007年度調査区では、旧河道から大量の田下駄が出土している（鳥根県教育委員会編 2009）。時期は弥生時代から古墳時代前期にかけての時間幅である

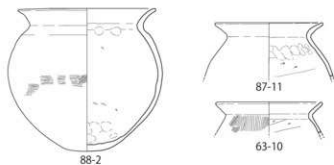


第91図 仁万平野の遺跡（弥生時代中期後葉一後期）

中四国地方の「布留形甕」



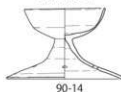
「布留形甕」の影響を受けた甕



外来系壺



外来系高坏



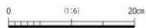
小型器台



外来系器台



※挿図番号の下線は松林寺遺跡、その他は大國地頭所遺跡



第92図 松林寺遺跡・大國地頭所遺跡の外来系土器2

が、この田下駄が出土した上下の層は、近隣に水田が存在した可能性は低いとされているが、田下駄の性格から考えて出土場所から遠くないところに水田が存在した可能性が強い。居住域（大國地頭所遺跡）—墓域（庵寺古墳群）—生産域（庵寺遺跡2007年度調査区の周辺）というまとまりを指摘することができる。

【古墳時代前期の外來系土器】

第92図は古墳時代前期の大國地頭所遺跡、松林寺遺跡で出土した外來系土器を挙げた。第3節で言及したように、中四国地方に多い「布留形甕」の出土点数が多いことが判る。遺存状況がよくないため肩部の調整が不明のものが多いが、ヨコハケが多く刺突文や列点文は少ないようである。「布留形甕」の影響を受けた土器も出土している。また、これらの甕に伴う高坏や小型器台も出土している。



第93図 仁万平野の遺跡（古墳時代前期—中期）

【古墳時代中期～後期】

古墳時代中期には、大國地頭所遺跡が衰退し始める。庵寺古墳群の南側丘陵部での造墓活動がしだいに低調になる。一方この段階には清石遺跡で土器溜まりが、ヒヨトリヶ市遺跡でも土器の出土が見られる。また、仁万大橋遺跡や善興寺橋遺跡でも土器が出土するほか、大寺遺跡では土器と共に木製品が出土しており、仁摩平野の中央部から北部にかけて活動が盛んになる。

古墳時代後期には、庵寺古墳群の丘陵で再び古墳が築かれる。庵寺1A号古墳は直径約10mの円墳で、無袖型の横穴式石室を持つ。出雲4期に平行すると考えられる。潮川の下流域に近い安養寺古墳群では、出雲3期～4期の横穴式石室を意識した埋葬施設が見つまっている。この地域には全長10mを超える横穴式石室に家型石棺を収める明神古墳が築かれており、庵寺1A号古墳や安養寺古墳はその下の階層に相当すると考えられる。榎ノ木谷横穴群は築造が開始された時期は不明であるが、8世紀まで追葬が行われた。また、矢迫屋横穴群や坊道横穴墓もこの段階から築かれ始めた可能性がある。これらの古墳・横穴墓群に対応する遺跡は少ない。仁万大橋遺跡や善興寺橋遺跡、大國地頭所遺跡では量は少ないが土器の出土が見られる。古墳時代中期に引き続き、平地に活動域が存在した可能性がある。

【古墳時代後期以降】

その後、飛鳥時代になると遺跡数が減り、大國地頭所遺跡で土器群1が継続している程度であるが、奈良時代（石見7～8期）から再び遺跡数が増加するようで、特に仁摩大橋遺跡、善興寺橋遺跡、馬庭遺跡など仁摩平野西側から潮川下流域にかけて土器が見つまっている。この背景の一つには、仁万平野における条里制の地割りに先行して、7世紀末～8世紀前半に条里プランに先行する地域計画線が存在した可能性が指摘されていることと関連すると考えられる（島根県教育委員会編2009、183-190頁）。

松林寺遺跡の位置する仁万平野の東側は、直接日本海には面していないにもかかわらず、弥生時代から古墳時代には、隣接する出雲西部に加え、北部九州や中四国地方、島根半島から丹後にかけての地域などといった広範な地域との交流を持っていたことが明らかになった。

【参考文献】

- 仁摩町教育委員会編1989『仁摩健康公園造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』、仁摩町教育委員会
 仁摩町教育委員会編1993『潮川小規模河川改修に伴う川向遺跡発掘調査報告書（I）』、仁摩町教育委員会
 仁摩町教育委員会編1998『清石遺跡外発掘調査報告書』、（主）仁摩瑞穂線大園工区特別票単（改良）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、仁摩町教育委員会
 仁摩町教育委員会編1999『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』、五丁地区県営農地環境整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、仁摩町教育委員会
 仁摩町教育委員会編2005『仁万大橋遺跡 善興寺橋遺跡』、潮川統合二級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、仁摩町教育委員会
 島根県教育委員会編1987『仁摩・坂瀬遺跡』『島根県埋蔵文化財調査報告書』第XIII集、島根県教育委員会、35-106
 島根県教育委員会編2009『五丁遺跡 庵寺遺跡I 於才追遺跡』、一般国道9号仁摩温泉津道路建設予定地内

埋蔵文化財発掘調査報告書 2、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2010『梨ノ木坂遺跡 庵寺古墳群 庵寺遺跡Ⅱ』、一般国道 9 号仁摩温泉津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 3、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2013『門遺跡 高原遺跡Ⅰ区 中尾 H 遺跡』、一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1、島根県教育委員会、

島根県教育委員会編 2014『庵寺古墳群Ⅱ 大迫ツリ遺跡 小釜野遺跡』、一般国道 9 号仁摩温泉津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 5、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2015『高原遺跡（2 区）』、一般国道 9 号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2017a『古屋敷遺跡（A・E 区）』、一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2017b『古屋敷遺跡（D 区）』、一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2017c『古屋敷遺跡（C・F・H・I 区）』、一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2017d『古屋敷遺跡（G 区）』、一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2017e『古屋敷遺跡（B 区）』、一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2018『大田地頭所遺跡』、一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7、島根県教育委員会